現状分析

# 入学前から始まる問題の連鎖

**学生受け入れに関わる問題を俯瞰してみると、高校生の学習時間不足と能動的な学習を苦手とする学習姿勢に端を発し、大学生の学力・意欲の低さや学生生活への不適応、さらには卒業後の大学への愛着の乏しさと、それぞれが影響し合った、ひと続きの問題となっていることがわかる。この連鎖を断ち切るためには、各大学が入学前の高校生の現状に正面から向き合うことが必要ではないだろうか。**

## 受け身学習に慣れた学生たち

2010年度に定員割れとなった私立大学・短大は、図表１に示すとおり全体の47％。ここ数年は18歳人口の増減が踊り場にあるものの、大学進学率の伸長鈍化も予想され、今後も入学定員の充足は厳しい状況が続くと推測される。

では、学びに対する姿勢や学習時間など、入学してくる学生の質はどうだろうか。まずは、入学前の高校生の学びの現状から見てみたい。

図表２は、高校生の学習姿勢を、得意・不得意の観点から見たものだ。「ものを覚える」や「知らないことを調べる」といった学習は生徒の半数以上が「得意」と感じている。一方、「勉強の計画を立てる」や「解き方を何通りも考える」といった能動型学習は７割以上が「苦手」と感じている。大学での学習方法を苦手としている多くの学生を、大学は受け入れることになる。

また、進研アドが実施した「2010年度高校生調査」によると、大学進学をめざす高校生の 平日の平均家庭学習時間は、1、2 年生が58分、3 年生は102分。「ほとんど勉強をしない」と答えた生徒が１、２年生でそれぞれ３割に達する。近年の学力低下が叫ばれる背景には、こうした学習時間の少なさも原因としてあるものと考えられる。

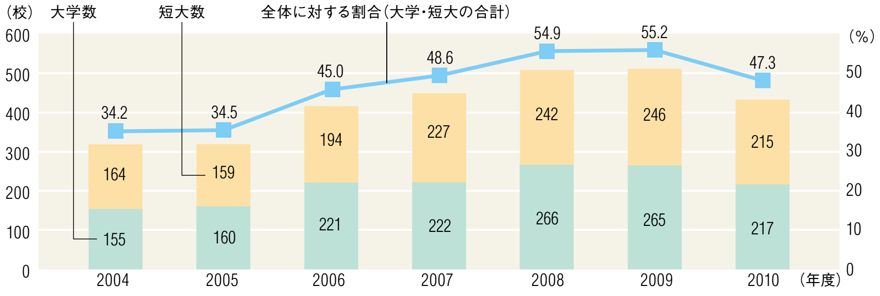
こうした学習姿勢が大学進学後にも継続していることを示しているのが、図表３だ。「演習形式」よりも「講義形式」、「応用・発展」よりも「基礎・基本」の授業を好み、「試験・論文による評価」よりも「出席・平常点による評価」を望むなど、学びに対する受け身の姿勢が際立っており、探究心の不足を感じさせる結果となっている。

さらに、（社）私立大学情報教育協会「平成19年度私立大学教育の授業改善白書」によれば、私立大学で指導する教員の側も学生に対して、56％が「基礎学力がない」、37％が「学習意欲がない」という見方をしている。

高校での勉強と大学での学習や研究は基本的に質が異なるものだ。これまで見てきたデータは、「生徒」から「学生」にうまく移行できていない層が少なからず存在する状況をうかがわせる。

**図表 1　約半数の私立大学・短大が定員割れ**

入学定員未充足の私立大学・短大




※日本私立学校振興・共済事業団発表資料より作成

## “入学前の理解不足”が大学への不満を生む

高校から大学への教育接続の問題を、適応度の観点から見てみたい。

図表４は入学時、どのような気持ちで進学したのか（志望度）と、入学後、他大学に入り直したいと考える頻度の関連を示したものである。

「やむを得ず進学した」学生の54％が他大学への入り直しを強く意識しており、「たまにある」を含めると77％に達する。不本意入学者が大学に適応できていないことは、容易に推測できる。ここで注目したいのは、「ぜひ入りたい」と思って進学した学生の適応度だ。27％（「よくある」と「たまにある」の合計）が、他大学への転学を考えると回答。満足して入学したにもかかわらず、大学生活に不満を感じてい

る学生が存在するのだ。

「ぜひ入りたい」と思って進学した学生が転学を希望する理由について自由記述を見ると、「より（入試難易度が）上位の大学へ」「より専門的な勉強を」といった向上心によるものが多いが、中には「思っていたカリキュラムと違う」「もっと調べておけばよかった」など、入学前の情報収集不足や、収集した情報が実際とは違ったというものがあった。

これらのデータから、大学への適応度は、入学後の経験のみならず、入学する前の、大学に対する意識のあり方に影響されることがうかがえる。大学全入時代を迎え、入学へのハードルが一層下がる中、適切な進路選択を行わないと、意欲や帰属意識を持てないまま学生生活を送ることになりかねない。

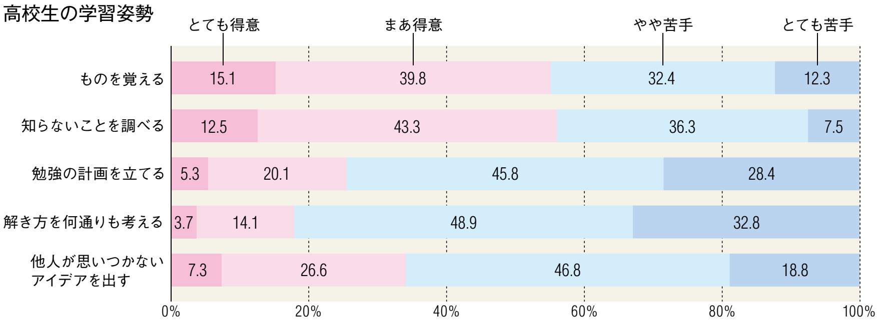
## 負の連鎖を断ち
## 意欲を高めるために

図表5は、卒業生の母校への愛着度を表したデータだ。在学中の満足度が低いと卒業後も愛着を持てないことがわかる。ここまで見てきた学習意欲の低さ、大学への不適応の問題は卒業後も尾を引き、卒業生に、大学と社会との結節点という役割を期待できないことになる。

大学がこうした負の連鎖を断ち、意欲ある学生を増やして教育成果を最大化し、社会に送り出すためには、受験生とのコミュニケーションのあり方から見直す必要がある。定員の確保が厳しい環境にあってなお、入学者の質の確保もおろそかにしない学生募集活動が求められる。

**図表２　<高校生>調べるのは得意でも、考えるのは苦手**

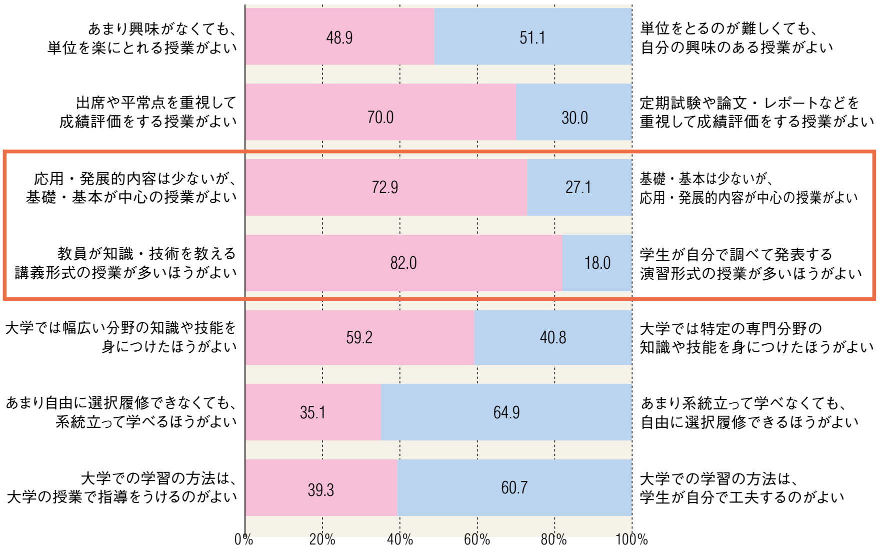
高校生の学習姿勢




出典／Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」（2009年実施　高校1･2年生対象）

**図表３　<大学生>授業に対して受け身の姿勢**

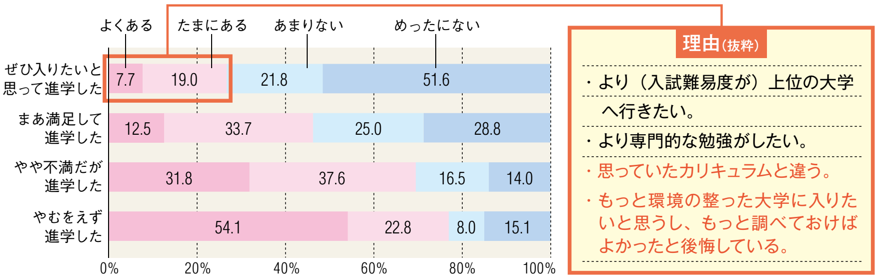
大学教育に対する選好




出典／Benesse教育研究開発センター「大学生の学習・生活実態調査」（2008年実施　大学1～4年生対象）

**図表４　<大学生>志望度の高い学生も、4分の1は転学を希望**

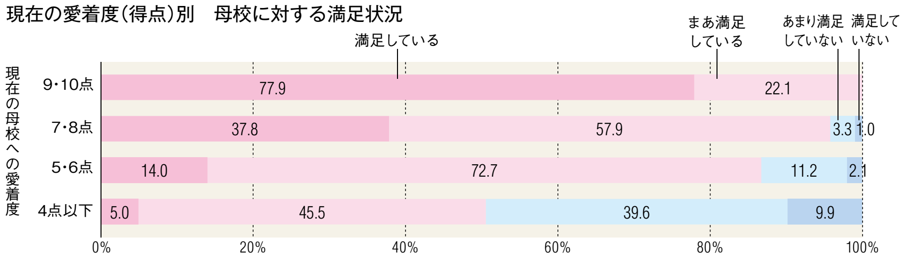
志望度と適応度（他の大学に入り直したいか）の関連




出典／Benesse教育研究開発センター「大学生の学習・生活実態調査」（2008年実施　大学1～4年生対象）

**図表５　<卒業生>母校への帰属意識は在学中の満足度に比例**

現在の愛着度（得点）別　母校に対する満足状況




出典／進研アド「卒業生調査」（2009年実施　4年制大学卒業の22～34歳対象）